



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言: デジタルデンティストリー の導入に向けて

歯学部長 宮崎 隆

新年号の巻頭言で、岡野病院院長から「新たな歯学教育・歯科医療を指向する」強いメッセージが寄せられました。本歯学部からは是非とも新たな歯学教育・歯科医療を世界に発信いたしましょう。新たな教育・医療にはそれを牽引する研究が必要です。本歯学部は超高齢社会の国民の長寿健康に歯科から貢献するために、平成22年度から文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成事業として、「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点の形成」プロジェクトを進めています。3月26日に初年度の成果報告を兼ねたシンポジウムを開催します。



一方、国は我が国の国際競争力を保つために、医療分野でも産業界を巻き込んでイノベーションを推進しています。歯科領域はマーケットが小さいことや、薬



事法の規制が大きいことから従来イノベーションが遅れていましたが、一般社会の流れと同様に、近年コンピュータを利用したデジタル技術の導入が進められています。

現在のインプラント診療の普及には、CT、診断用ソフト、手術ナビゲーションシステム、上部構造作製へのキャドキャム(コンピュータ支援製作システム)などが貢献しています。一般的な歯冠修復処置は、過去半世紀に、弾性印象材の開発と歯科精密鑄造技術が確立して、貴金属合金をベースにポーセレンやコンポジットレジンに前装する修復物が日常的に使用されています。ここでも、直接、口腔内をカメラで光学印象する技術、モニター上でのバーチャルワックスアップ(キャド)、セラミックスブロックからの直接の削りだし(キャム)が導入され、印象材や貴金属合金の使用頻度は激減すると予測されます。これにより、医療サービス(安全性、低



侵襲性、経済性、早期の機能回復、品質保証)が向上します。このように、コンピュータ技術の導入、すなわちデジタルデンティストリーは歯科医療を変革します。

デジタルデンティストリーは診療だけでなく、教育にも導入されます。本歯学部では患者ロボットの開発に引き続き、仮想患者システムの開発を行っており、これらを活用して、第2回のiOSCA(臨床実習終了時の総合的臨床能力評価試験)を3月3日に実施します。今後も、新たな歯学教育・歯科医療の遂行のために、全歯学部をあげてイノベーションに取り組んでいきたいと思います。



須田立雄名誉教授が 瑞宝重光章を受賞されました

口腔生化学教室 上條 竜太郎

本学名誉教授、日本学士院会員、須田立雄先生は、長年にわたり歯学教育ならびに基礎生命科学研究を通じて医学・歯学



の発展に貢献された功により、平成22年秋の叙勲において、瑞宝重光章を叙せられました。これを祝して平成23年2月19日、ホテルオークラ曙の間にて祝賀会が開催されました。祝賀会は岡野友宏歯科病院長の開会の辞で幕を開け、宮崎隆歯学部長が発起人を代表しご挨拶を申し上げます。その後、小口勝司理事長、片桐敬学長、江藤一洋日本歯科医学会会長、大山喬史東京医科歯科大学学長よりご祝辞を賜り、鏡開きに引き続き西村誠東京医科歯科大学歯科同窓会長のご発声により乾杯が執り行われました。暫くのご歓談の後、小澤英浩新潟大学名誉教授、南雲正男名誉教授よりご祝辞を賜り、飯島裕之昭和大学歯学部同窓会長より閉会の辞を頂戴し、閉幕となりました。祝賀会は各方面より多くのご来賓をお迎えし、出席者は合計約220名を数え、大変盛会となりました。

須田先生は40年以上にわたり、生体の最も基本的なカルシウム代謝因子であるビタミンDの研究に従事され、特にご自身が考案された活性型ビタミンD合成

誘導体(1 α -ヒドロキシビタミン D₃)は骨粗鬆症患者の基本的な治療薬となっており、今日の医学へ多大なる貢献をされました。また、骨吸収の主役を演じる破骨細胞の形成には、骨形成に関与する骨芽細胞と破骨細胞前駆細胞との間に細胞間接着を介して破骨細胞分化因子(ODF)が関与することを分子レベルで証明されました。須田先生のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。



平成 23 年度 選抜 I 期・センター I 期 試験が実施されました

入試常任委員 五十嵐 武

平成23年1月29日(土)に平成23年度の歯学部選抜 I 期・センター利用 I 期入試が東京会場(旗の台キャンパス)、大阪会場(新大阪丸ビル新館)、福岡会場(南近代ビル)でそれぞれ実施されました。

志願者数は選抜 I 期で210名(昨年比で35名減少、倍率4.2)、センター利用 I 期で84名(昨年比で17名減少、倍率10.5)となりました。全国的にも歯学部志願者が減少傾向にあります。今回の入試では、いずれも約15%の減少に留まりました。試験当日は学力試験(英語、数学、理科)と面接が行われ、合格発表は選抜 I 期が2月1日(火)、センター I 期が2月5日(土)に旗の台校舎での掲示とホームページで行われました。合格者は選抜 I 期で50名(男子22名、女子28名)、センター I 期で4名(男子1名、女子3名)を発表しました。今回の入試から、歯学部、薬学部、保健医療学部の3学部が、同日・同会場で試験を実施することになりましたが、特にトラブルもなく無事終了いたしました。

また、平成23年2月27日(日)には、選抜 II 期試験、編入学 II 期試験、センター利用 II 期試験の実施が予定されております。職員の皆様には今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

共用試験CBTが実施されました

共用試験CBT副実施責任者 荒木 和之

2月2日水曜日に、平成22年度共用試験 CBT が実施されました。インフルエンザが流行の兆しを見せ始めている時期であり心配していましたが、4年生10

0名は遅刻や欠席もなく全員無事受験しました。

当日は旗の台校舎4号館600号教室を試験会場とし、学生は午前9時10分に集合し、実施委員長の北川先生およびモニタ委員の先生から注意事項の説明の後、全320問の問題に取り組みました。試験は6ブロックに分かれており、各ブロック60分で解答をおこないました。最後にアンケートをして解散となりました。学生は終始緊張の面持ちで試験に臨んでいましたが、CBT 事前説明会の開催や CBT 体験テストを経験していたこともあって、これといった混乱もなく無事試験を終了することが出来ました。試験監督は基礎系の先生方に担当していただき、昨年度と同様に各ブロック3名のべ18名の体制でおこないました。

試験終了後におこなわれた、共用試験実施機構からのモニタ委員の講評では、受験態度や実施状況など、全体的に良好でしたとのコメントをいただきました。CBT 実施にあたりご協力いただいた先生方・事務方の皆さんには、この場を借りて御礼申し上げます。



試験開始前の会場風景

共用試験OSCEが実施されました

OSCE委員会 委員長 菅沼 岳史

2月20日(日)に歯学部4年生を対象とする共用試験OSCEが、歯科病院において191名のスタッフ(教員147名、職員5名、SP31名、実施機構モニター2名、機構派遣外部評価者6名)で実施され、100名の受験生が受験しました。一人も受験生の遅刻、欠席はなく、大きなトラブルもなく無事終了することができました。ただ、例年に比べると受験生のレベルが落ちているのでは?といった声も上がっており、診療参加型臨床実習を推進するにあたり、基礎実習の見直しや態度教育についても検討する必要があるようです。反省会で機構モニターと外部評価者からは、前日の準備と評価のすり合わせ、テストランの方法など改善の必要性を指摘されました。それらの指摘事項については、次年度に向けて今後検討したいと思います。週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力を頂きありがとうございました。

歯科医師国家試験が実施されました

D6チュータ会議責任者 佐藤裕二

2月5・6日(土日)に大正大学で実施された歯科医師国家試験を卒業予定者82名が受験しました。

毎年、この時期は寒さが厳しいのですが、立川学生部長、高橋教授、弘中准教授、教務課の宮崎さんや数名の先輩たちが正門で激励するなか、学生達は緊張した面持ちで入場しました。今年の6年生は、5年生の際の臨床実習の責任者を私がさせていただいた学年であり、引きつづき本年も国試対策で密接に指導した学年ですので、とても思い入れがあります。国試が難化するなか、発表の3月22日には多くの学生達の喜びの顔をみたいものです。

各教室での今回の国試問題の分析も行われつつあり、次年度の教育に向けた準備も着々と進んでいます。私も全問を解答して自己採点してみました。苦手科目は悲惨でしたので得点は秘密ですが、なんとか合格できそうでしたので、ほっとしています。

大学院歯学研究科入学試験(春季第2期)が実施されました

大学院歯学研究科 運営委員長 上條竜太郎

平成23年度大学院歯学研究科入学試験(春季第2期)が、2月13日(土)に実施されました。志願者数は14名(社会人特別選抜6名を含む)でした。試験は英語(一般英語・科学英語)と専攻科目について実施され、14名全員が合格しました。この結果、春季第1期合格者(5名)と合わせて、本年4月の大学院歯学研究科入学予定者数は、19名となります。また、全合格者名のうち他大学出身者は2名でした。入学式は4月2日(土)に執り行われます。

女性歯科医師支援プロジェクト報告

女性歯科医師応援委員会 委員長 井上 美津子

平成22年度より試験的ではありますが、女性歯科医師支援プロジェクトが開始されました。前年に昭和大学出身の女性歯科医師にアンケート調査を行ったところ、開業・開業医勤務で働いている女性歯科医師が多い一方で、出産・子育てなどの状況で歯科を休職中のものもみられ、歯科診療への復帰の意志はあるものの、復帰のきっかけとなる臨床現場がないという現状が明らかになりました。本プロジェクトはこの結果を受けて歯科診療の現場復帰のための研修会を行うというものです。来年度も本プロジェクトは継続される予定ですので、同窓会の先生方のご参加をお待ちしています。



女性歯科支援プロジェクトに参加して

15期 古平 衣美

参加第1号ということで今回寄稿することになりました。まず初めに、このプロジェクトを立ち上げて下さいました先生方、ご協力頂きました先生方に御礼申し上げます。

私は卒後、歯科病院口腔外科に入局し、結婚後も子どもはまだ先でいいと勝手に思っていました。ところが、母が病気になり、手術室に入る時「孫の顔が見たい」と言われ、親孝行をする感覚で子どものことを考え始めました。そして妊娠、出産、子育てが始まると楽しくて、私の人生観は大きく変わり、すっかり子育てに専念していたら、現場から全く離れてしまい、復帰のきっかけが見つからないでいた所にこの女性支援プロジェクトを知りました。初日、懐かしく思いながら歯科病院へ。久しぶりの現場に緊張し刺激を受けました。今回の研修は現場に慣れる、感覚を取り戻す目的でした。復帰に向けて、少々焦って不安でしたが、具体的にどのようにしたらいいかを見つけられた研修でした。育児、病気、何かしらの理由で休職し、全く離れてしまう状況となる先生もいらっしゃると思います。このプロジェクトを通して繋がりが出来ることは有効的だと思います。

5th International Symposium on Apatites and Correlative Biomaterials 2010 Symposiumに参加しました

歯科保存学教室 田中 玲奈

2010年12月にオーストラリア ケアンズにて開催された第5回国際バイオマテリアルズ学会で「ANTIMICROBIAL ACTIVITY AND OSTEOBLASTIC RESPONSES TO ANODICALLY OXIDIZED TITANIUM SURFACES (陽極酸化したチタン表面の抗菌効果と骨芽細胞の応答)」についての口頭発表をしました。私にとっては国際学会で初めての英語のプレゼンテーションでしたが、無事発表を終えることができました。本学会では各国から歯科医師だけではなく、生体材料のスペシャリストが参加しており、ポスター発表の他は、常に一つの口頭発表を全員で聴くというスタイルでしたので、専門的なディスカッションが活発に行われました。世界中の研究者と知識を共有することが海外での発表の醍醐味ではありますが、実際に、海外の先生と自分の研究について話し合うと、日本で行ってきた研究がボーダーレスに世界に広がることを鳥肌が立つほど実感できるのです。また、口頭発表というひとつの目標を立てて乗り越えることは、自分自身にとって大きな飛躍になりました。このような貴重な機会を与えてくださった、歯科理工学教室 宮崎教授、柴田先生、歯科保存学教室 久光教授、美容歯科 真鍋教授に心より感謝いたします。

口腔先端応用医科学研究会 第3回学術会議 昭和大学から2名の受賞

歯科補綴学教室 宮内 知彦

1月22日に東京医科歯科大学特別講堂で開催された口腔先端応用医科学研究会(Academy of Advanced Applied Science on Oral Medicine; AAASOM)第3回学術会議に参加いたしました。AAASOMは基礎研究者・臨床家を問わず、形態と機能の再建医学・再生医学、ならびにこれらに関連した医学・科学を追究し、分野間、研究者臨床家間、産学間の融合を目的に3年前に設立された学術組織です。学術会議の規模は決して大きくはありませんが、演者の先生は特に再生・補綴医学に関し世界の先端をリードしている基礎研究者・臨床家であり、またクリエイティブなディスカッションが非常に活発であるため、多岐に渡る高度な研究内容・実際の臨床例等について勉強することができました。昭和大学からは歯科保存学教室の田中玲奈先生、歯科補綴学教室の岩佐文則先生、宮内知彦の合計3題の発表がありました。その中で、AAASOM Young Investigator Awardの4名の中に私と田中玲奈先生が選出され、さらにプレゼンテーション審査の結果、優勝という栄誉をいただきました。このような栄えある賞を受賞できたのも、日頃よりご指導頂いております口腔生化学教室の須澤徹夫先生・上條竜太郎先生、歯科補綴学教室の馬場一美先生をはじめ、ご支援頂きました教室の諸先生方のおかげであると、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

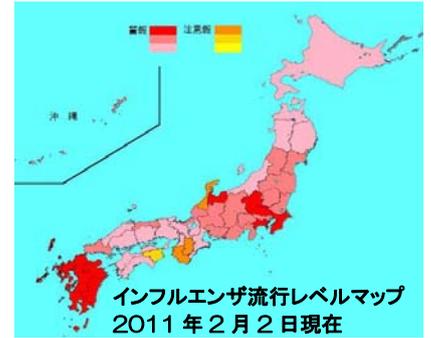


インフルエンザに注意しましょう

総合内科 井上 伸

総合内科では1月後半からインフルエンザによる受診が急増しています。A型の新型インフルエンザで予防接種を受けた例が目立ちます。治療にはウイルス増殖を妨げるノイラミニダーゼ阻害薬を投与します。経口薬「タミフル」のほか、ラニナビルオクタン酸「商品名イナビル」が発売されました。一回吸入のみで効果を発揮しますが吸い込むのに多少「こつ」が要ります。インフルエンザを発症した場合は免疫システムを邪魔しないように解熱剤で熱を下げない方が良く考えられています。学校保健安全法では新型インフルエンザは治癒するまで出席停止となっていますがノイラミニダーゼ阻害薬で発熱期間は短縮しても5日間は伝染性が持続します。自宅で安静に過ごしましょう。インフルエンザウイルスの感染経路は接触感染と飛沫感

染です。接触感染の予防には手洗いが、飛沫感染予防にはマスクが有効です。ただし、感染予防の際にマスクを何度も手で触ったり、つけたり外したりすると逆に感染の原因になります。手洗いを励行し、栄養や適度な運動など日ごろの体調管理を心がけましょう。



受賞・認定医

広報委員長 井上 富雄

- ・口腔先端応用医科学研究会 第3回学術大会 口腔先端応用医科学研究会若手賞: 歯科補綴学教室 宮内 知彦(優勝)、歯科保存学教室 田中 玲奈
- ・日本小児口腔外科学会認定医: 小児成育歯科学教室 船津 敬弘

行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 3月17日: 昭和大学卒業式
- 3月18日: 大学院修了式
- 3月19日: 昭和大学共同研究成果発表会
- 3月26日: 文部科学省戦略的研究基盤形成事業研究成果発表会
- 4月 1日: 進級式・白衣授与式(D5)
- 4月 2日: 大学院入学式
- 4月 4日: D2・3・6健康診断
- 4月 5日: D4・5健康診断
- 4月 8日: 入学式及び入寮式

診療統計(平成23年1月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	17,088	743.0	792.2	751.0
入院患者	428	13.8	13.3	12.9

編集後記

口腔病理学教室 山本 剛

寒暖の差が著しい毎日が続いております。中東・アフリカからは不穏なニュースが毎日届いています。先日私の手元に1篇の論文査読依頼が来ました。所属施設はなんとエジプトの大学です。もちろんエジプト国民が全員デモを行っていた訳ではありませんが、厳しい政情の中作成された論文に重みを感じました。査読結果は別問題ですが...。学務多忙の折、原稿をご執筆下さった諸先生方に心から御礼申し上げます。